

理事長所信

第52代 理事長 阿部 友弘

【はじめに】

1963年、私たちの故郷であるこの福島の地に志を同じくする先輩諸兄が「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下、社団法人福島青年会議所を設立されました。その間、時代ごとの経済情勢や社会環境に応じた明るい豊かな社会の実現に向け、歩みを止めることなく創立52周年を迎えます。先輩諸兄より受け継いだ英知と勇気と情熱の灯をさらに次の世代に繋ぐべく、「不易流行」を念頭にJAYCEEとして時代の求める姿に対応しなくてはならない部分、そして決して変えてはいけない部分をしっかりと次代へ繋ぎながら地域社会から求められる団体となるようひとづくり・まちづくりに邁進してまいります。

【公益社団法人として】

2013年5月に福島青年会議所は公益社団法人として登記されました。これにより法的にも我々の運動は「公益である」と認められるに至りました。これはゴールではなく新しいスタートだと考えます。維持・継続に向けた会員の資質向上を行い、その結果として地域社会からより一層信頼され、求められる団体となるよう、そして市民から愛され必要とされる団体として存続できるよう努めてまいります。

【未来を担う子どもたちへ】

東日本大震災から3年以上が経過しました。建物や道路の復旧は進んでいますが、福島から遠方へ避難した人はなかなか戻ってきておりません。同様に未来の福島を担うべき子どもたちも避難先から戻ることなく減少しています。ローカルコミュニティが崩壊するほどの「震災後」という困難な時代でありながらも、しっかりと子育てをしながら家族を守っている自分の親や家族、地域社会に対し誇りや愛情を持った子どもを少しでも多く育成すべく青少年育成事業を実施し未来のリーダー育成に尽力いたします。

【愛する故郷のために】

放射能問題は風化するどころか、実際に福島で生活している我々の予想もしない方向に進んでいるのかもしれませんが。一步、福島から外に出ると誤解や偏見が未だに強く日本を覆っていると感じます。その中であって福島に住んでいる我々が誇りと郷土愛を捨てるわけにはいきません。むしろ世界的に注目される今だからこそ、地域のたかさを掘り起こし、市民が愛し誇れる郷土・福島を創出する事業を、市民を巻き込んで行い福島の元気と現状の打破を発信すべきだと思います。また、震災後の新たなまちづくりへの契機となるような機会を創出し、市民へ提唱いたします。

【会員拡大】

地域の人口減少に伴って青年会議所運動の根幹であるメンバーの減少もここ数年顕著です。先輩諸兄が築いてこられた地域社会からの信頼も会員がいることで各運動を行うことができることから由来しており、会の更なる発展のためにも会員拡大は急務であると考えます。他団体や他LOMでは昨今の厳しい経済環境・地域条件により会員拡大が困難であるとの話もあります。しかし我々の活動は間違いなく地域に必要とされています。このことに誇りを持って常に新たな試みを展開し、地域社会からの信頼と付託に応える魅力ある団体として「自己修練の場」「友情を育む場」「社会奉仕の場」を提供し多くの仲間を迎え入れられるような会員拡大を行ってまいります。

【東北の夢】

2013年の小畑会頭輩出、2014年のASPAC山形大会開催、そして2015年に開催される全国大会東北八戸大会が新東北3つの夢として掲げられ、いよいよ集大成を迎えます。同時に2015年は同じ県北エリアの二本松JCが浪江JCと共催で東北青年フォーラムを主管します。どちらの大会も福島復興、そして東北復興を全国のメンバーに発信し、東北がそして福島がひとつになるまたとないチャンスです。主管LOMと共に恩返し精神でお迎えをするために協力を惜しまず、大会の成功に向け心を一つにしていきましょう。全国のメンバーとの友情を育み増進するまたとないチャンスです。

【真の復興に向けて】

2011年3月11日に発災した東日本大震災から数年が経過し、近県では復旧復興が加速しているという話も耳にします。しかしながら福島に至っては東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能事故の影響で帰還すらままならない避難されている方が数多くいらっしゃいます。福島市内にも仮設住宅で暮らす方や福島から遠く離れて暮らす福島市出身の方も同様です。インフラストラクチャーや可視的な物的復旧だけではなく、心のケアや郷土愛などのソフト面での復興には我々の活動が必須であると言っても過言ではないでしょう。多方面より差し伸べられる手に感謝と友情を感じ、広く市民へ伝えていくこそが故郷福島の真の復興への道そのものであると感じます。市民の意識変革を喚起する事業を通して復興への一助となるよう努めてまいります。

【結びに】

入会以来、JCを自己修練の場として活動した結果、自らの成長を実感しているメンバーも多いと思います。私もその一人です。組織の性質上いつかは去らねばならない時が来ますが、成長させていただいた「福島青年会議所」に対し恩返しをしましょう。たとえばそれは成長途上の後輩に対し自らも先輩諸兄からいただいた叱咤激励を、愛情をもって伝えることだと思います。それまでできなかったことが、ある時、誰かに助けをもらいながらできるようになった。次はできずに困っている誰かを助けて、その誰かができるようになるまで助ける。その繰り返しこそが脈々と受け継がれてきた青年会議所運動の原点であるはず。そしてその運動の中で互いに切磋琢磨し、メンバー各自が卒業してからも愛する故郷福島のために自分で何ができるかを考え行動することが明るい豊かな社会の実現へと繋がると確信しております。

次世代へ実りある遺産を遺すこと。これは世代としての責務です。一人ひとりの力は微力ですが、福島を想い福島を愛する仲間・同志として同じ意識を持ち、持てる力を余すところなく発揮することで相乗効果を期待できます。震災後の大きなうねりの中だからこそ、市民を巻き込み、次世代へ背中を見せる行動をとり品格ある青年として共に成長してまいります。

「良い種をまけば良い実がなる」ある経営者の言葉ですが、福島のより良い未来のためには我々が良い種をまく必要があります。そして我々青年に必要なのは口舌ではなく行動なのです。今だから、そして今しかできない未来への第一歩を我々の手で築きましょう。

最後に、福島青年会議所 第52代理事長という身に余る重責を与えてくださいました全ての皆様に深く感謝申し上げますと共に、私の持てる力の限りを尽くして職責を全うすることをお誓い申し上げ理事長所信とさせていただきます。

We Love Fukushima !!

～呼び覚ませ!文化と伝統を繋いだ新しい故郷への無償の愛を～

2015年度 基本方針

- ・青少年育成事業の開催
- ・福島の特徴を活かしたまちづくり事業の開催
- ・新ふくしま未来構想に基づく事業の開催
- ・福島の伝統文化を活かした地域の発展に寄与する事業の開催
- ・まつりに関わる関係諸団体事業への積極的な参加・協力
- ・過去における会員拡大手法と実績の検証
- ・会員拡大に関する目標及び計画の策定と会員拡大運動の実施
- ・会員向けメルマガ(web版 摺)の発信
- ・Web版 JC ニュース発行
- ・財政審査会議の開催
- ・災害復興支援事業への参画及び協力